【医療機関向け】活用例

直近の薬剤情報等の確認で心筋梗塞患者の救命につなげた事例

情報提供元：福岡大学病院/ 福岡県

POINT：救急時医療情報閲覧による直近の薬剤情報等を確認し、造影剤投与リスクを把握。院内で速やかに情報共有を行い、その後の治療に活用することで救命に寄与。

事例詳細

症例

70歳代 男性

重篤な出血で救急搬送

- 運動中に突然、強直間代性痙攣様動作を認め、意識消失
- AED適応外のため救急要請。

搬送・来院

お薬手帳 未持参　口頭 聞き取り

患者の**薬の服用歴や既往歴を確認できない。**

- 心電図所見よりST上昇型心筋梗塞の疑いがある。
- 造影剤使用リスク考慮のため、内服状況の確認をしたいが･･･。

救急時医療情報閲覧による治療方針決定

マイナ保険証の持参　※同意取得は困難

病院薬剤師が**直近の薬剤情報等から既往歴等を確認**し、医師に共有。
医師は情報をもとに治療方針を策定。

電子カルテシステム等

- 2型糖尿病の既往歴
- 定期内服薬
- かかりつけ医療機関

【救急時医療情報閲覧で薬剤情報等を確認】

- ２型糖尿病の既往が確認できました。
- ビグアナイド系糖尿病薬の内服患者は、造影剤投与時に腎機能悪化を契機とした乳酸アシドーシス発症リスクが懸念されますが、内服がないことを確認できました。

病院スタッフ間で情報共有

適切かつ速やかな治療

【薬剤情報等をもとにした治療】

- 造影剤使用の安全性を担保しながら緊急冠動脈造影を行い、責任病変を把握できました。
- 緊急経皮的冠動脈形成術に移行し、バルーン拡張後にステント留置を行い、良好な再灌流を得ることで患者の救命に繋がりました。

【病院からの声】

スタッフ間で、救急時医療情報閲覧による過去の薬剤情報等の即時共有体制を整備することは、造影剤リスクの迅速把握につながります。
ST上昇型心筋梗塞の治療遅延防止、医療安全確保の観点から極めて有用です。

【ポイント】

- マイナ保険証で本人確認を行い救急時医療情報閲覧を活用。
- **同意取得が困難な患者の医療情報等の確認が可能。**
- 当該患者は**普段から電子処方箋対応施設を利用していたため、直近の薬剤情報が確認できた。**